

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473700449	事業の開始年月日	平成13年3月1日
		指定年月日	
法人名	社会福祉法人 青葉福祉学院		
事業所名	グループホーム 万寿の森		
所在地	(〒225-0004) 横浜市 青葉区 元石川町 4323-1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	36 名
		工外数	4工外
自己評価作成日	平成23年12月9日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月24日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人一人を尊重し、豊かな自然の中でゆったりと温かな家庭的な生活を支援します。手作り重視の食事を通して、健康的な生活を支援します。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月22日	評価機関 評価決定日	平成24年4月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所概要】 この事業所は、田園都市線あざみ野駅より東急バスで5分、大場町バス停から徒歩2分ほどの里山に囲まれた広大な敷地内に4ユニットが独立した建物として建てられている。周辺の自然環境に恵まれ、森には様々な動・植物が生存している。施設内には散歩道が作られそれぞれの季節を楽しむことができる。また、低地には畑が作られ野菜や穀物を栽培し、秋には収穫祭が催されている。職員は10項目の理念を基に家庭的な雰囲気と自然環境を十分生かした生活の中で利用者をサポートしている。</p> <p>【地域との交流】 地域の一員として元石川船頭自治会や長寿会に加入し、地域の行事に参加している。敷地内にある万寿会館を地域の方に開放したり、幼稚園児との交流をはじめ小・中学生の体験学習や専門学校生の実習を受け入れている。年間の行事も盛りだくさんある。5月の横浜消防音楽隊の演奏や夏の納涼祭、秋の収穫祭には、近隣住民やボランティアの方々をはじめ多くの方が集まり楽しく交流をしている。また、ボランティアの受け入れも盛んに行なわれ、畑での野菜や穀物作り、ネイルケア、傾聴、楽器演奏、社交ダンス、囲碁、演奏会など地域密着としての役割を果たしている。</p> <p>【健康管理と医療連携】 利用者の健康管理については、かかりつけ医や協力医療機関から適切な医療が受けられるよう支援している。医療連携体制加算の届出をし、利用者の心身の変化や緊急時には24時間何時でも相談や対応が出来るように訪問看護師とオンコールにより連携できる体制ができている。 重度化や看取りについては「入居者が重度化した場合における対応にかかる指針」により家族の会に説明した後、個々の利用者や家族に説明し、同意書を受け取っている。看取りの際には医師、看護師、家族、職員で話し合いチームとしての体制ができている。職員には協力医の医師を講師に招き、これまでに3回ターミナルケアについて研修を行っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	万寿の森
ユニット名	みずき棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で話し合い、介護の方法を出し合って理念に基づくケアを確認。管理者と職員は社内研修にて理念を確認し、実践につなげようと努力している。	事業所独自の理念10項目を玄関、スタッフコーナーに掲示している。管理者は朝礼や会議で具体的な事例をあげて理念を確認し、共有を図っている。職員は、利用者が家庭的な環境の下でゆったりと過ごせるようにサポートしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加盟し地域の小学校や幼稚園と交流、運動会に参加したり、訪問を受けたりしている。また、消防音楽隊を招き、近隣の幼稚園児、小学生、住民と共に演奏を楽しむ。	自治会や長寿会に加入し、地域のお祭りや盆踊りに出かけて楽しんでいる。近隣の幼稚園児、小・中学生、と交流や体験学習を受け入れている。ボランティアは大正琴、傾聴、習字、ネイルケアなどに訪れている。納涼祭には消防署の音楽隊の演奏や収穫祭に近隣住民の方々を招き楽しく交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて理解を深めていただけるように努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設以外の専門家や地域の有識者等の意見を聴き、サービス向上に活かすよう努めている。	運営推進会議は年6回開催している。参加者は地域包括支援センター職員をはじめ9名が参加している。事業所の現状や活動状況、外部評価について報告し、助言を受けている。議事録は閲覧用として管理者の部屋に置いている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長や管理者が行っている。市町村担当者、民生委員、地域包括等と連携を取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	青葉区の高齢者・障害者支援課から協力・指導を受けるなど連携している。また、事業所の活動状況や外部評価について報告している。横浜市グループホーム連絡会、県グループホーム協議会に加入し、情報交換や職員の交換研修に参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解するように学びあい取り組んでいる。一人の入居者に限り車いすベルトの使用あり（ご家族からの要望・カンファレンス実施）ご家族等の協力・理解を得て危険防止、不審者対策の為、玄関は施錠している。	「身体拘束の手引き」により研修を行い、身体拘束をしないケアを実践している。4ユニットは傾斜地にそれぞれ独立して建てられている。玄関横に事務室がなく見守りは困難な状況である。外部からの不法侵入や無断外出から利用者の安全を守るため、家族からの要望もあり玄関を施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	取り組んでいる。虐待が見過ごされることが無いように注意を払い、常に意識し、防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、それらを活用出来るように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度管理者が行っている。十分な説明を行って理解・納得を頂くように努力している。場合によっては施設長やケアマネも同席する。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて、話し合える環境につとめている。運営推進会議に家族を代表して2名の方が参加され、結果を家族役員会にて報告している。	家族会（各棟2名、計8名）で自主的に運営し、毎月開催している。家族交流会、運営推進会議、家族の会だよりや意見箱を置き要望や意向を聞く機会を設けている。居室担当制を採用し、利用者からの要望、様子の観察、家族への対応など会議で話し合い運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の仕事の合間や各会議で話し合いの場を設け、皆が話し易い雰囲気を作っている。	管理者は職員と定期的に面談し話し合う機会を設けている。職員は会議などで意見や提案する機会を持っている。職員間のチームワークや利用者への接遇などについて意見があり、管理者は会議で介護の原点に戻り、職員間の情報交換や連携、利用者に対する言葉使いに十分注意するよう職員に周知している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の実施や意向アンケートを取って活かすように努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修の実施、又各会議で話し合い把握に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を通じて交換現場研修への参加・実施。また、他施設への訪問や研修への参加を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その都度本人の意向を聴き、相談を行っている。又、家族の声に耳を傾けて本人の気持ちを受け止められるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の相談事や困っていることを聞き、上司に意見を聞きながら関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要としている支援を見極め、対応出来るようにつとめている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりと共に暮らす者同士という気持ちで関係を築くように努めている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に家族と共に考え、支えあうように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた場所や関係は、家族と相談しながら支援に努めている。	1日に2、3人程度の訪問がある。訪問者に対しては、職員はお茶でもてなし歓迎するなど馴染みの関係を大切にしている。利用者が以前通っていた教会の牧師が訪ねてくることもある。お墓参り、法事出席、電話の取り次ぎ、手紙の投函の支援も行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支えあって暮らしていくように、孤立しないように、共に楽しめる支援をする。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が連絡を取り合っ必要に応じて、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声かけを十分にし、傾聴に努める。その上で出来るだけ個々の希望や要望を取り入れ尊重して行っている。	アセスメントの生活の様子、バックグラウンド、グループホームに期待することなどにより利用者個々の思いや意向を把握している。新たに情報があれば、ワーカー会議で報告し、職員間で共有している。意向の把握が困難な場合は、アイコンタクト、しぐさや表情、家族からの情報などから把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人の意見を聞き、これまでの経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	其々のペースがあり、その日の様子を見ながら無理なく過ごせるように把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議（ユニット）で入居者の方の生活ぶり、変化に対する共有。3カ月毎のケアプランの実施状況の点検。要望の反映の確認等を話し合い、ご家族の承認を得ている。	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行なっている。本人や家族の意向、医師や訪問看護師の意見を取り入れて原案を作成し、職員会議で話し合い利用者個々にあった介護計画を作成している。モニタリングや評価を記入した記録がないため、職員のケア状況とのつながりが損なわれ、次のプラン作成に情報の共有がしづらい面がある。	介護計画とその実践によりモニタリングや評価を行い、次のプラン作成に反映できるように書式を整えることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員のケア記録の実施。毎日の申し送り。朝礼（全棟参加）での報告。業務日誌の記載等で情報を共有し、モニタリングを通じて計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況やニーズを良く確認し、実態に合ったサービスが出来るように努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや消防署による訓練等を行い安全で楽しく暮らせる取組をしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望により納得された方は居宅療養管理指導のかかりつけ医の往診。また、従前からのかかりつけ医への受診、協力病院への受診等を支援している。	入居前からのかかりつけ医を利用している方は7名おり、家族の同行で受診している。状況によっては職員が同行する場合もある。協力医は月2回、歯科医は週1回来訪して利用者の診察に当たっている。訪問看護師は週1回来訪し利用者の健康管理、相談、医師と連携している。利用者の心身の変化や緊急時にはオンコールにより24時間何時でも相談や対応が取れる体制ができている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による週1回の看護師の訪問時に、日常の情報や気づきを看護師に伝えて相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院との連携・関係作りに努め、病院が行っている地域連携会議にも管理者やケアマネが参加している。退院の際には病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族会を通じ又、事業所内でも話し合い、方針を共有できるように取り組んでいる。重度化や、看取りに対するご家族の意向を面談で把握し、支援できるように話し合いを行っている。</p>	<p>昨年9月に医療連携体制加算の適用を受け「重度化した場合における対応に係る指針」の書類を作成した。家族会に報告後、個別に利用者や家族に説明し、同意書を受け取っている。昨年看取りを行なった際には、医師、家族、職員と話し合いチームとして対応した実績がある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命法や応急手当の訓練を行っているが、実践力を身につける為にはさらに定期的に訓練を継続し、取り組んでゆく必要あり。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的（年2回）に消防署の協力を得て防災・避難訓練を実施。夜間を想定した訓練も実施。意識を高め、身に付けられるように今後も継続して実施する必要あり。地域との協力体制は築けている。</p>	<p>消防署の協力により通常防災・避難訓練を年2回実施しているが今年はさらに1回追加している。地域の消防団や住民の協力により、夜間職員一人体制を想定した訓練を実施している。自治会と災害時の支援協定を締結している。非常用の食料、飲料水は3日分備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを傷つけないよう、プライバシーを保てるよう努力している。安心出来るような言葉かけを行っている。	職員は入職時の研修や会議の中で個人情報保護法、接遇、法令順守やプライバシー保護について説明を受けている。利用者を人生の先輩として人格を尊重し、プライバシーやプライドに配慮した言葉かけに注意して対応している。個人情報のファイルは各棟および事務室に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やさしく訴えを聴き、自己決定出来るように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりある対応を心がけ安全を確認しながら、希望に添えるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立者には本人の好みや意向を尊重。介助が必要な方にはその人らしい身だしなみやおしゃれを支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	多様な食材と手作りによる食事で食べる楽しみを支援。本人の意見を聴きながら、各自の出来る力に応じた準備や片付け等を職員と一緒にやっている。	献立は栄養士が作り、食材は業者から配達のほか、野菜は畑から収穫したものも使って、職員が調理している。利用者は後片付けなどできる範囲で手伝っている。職員も見守りや介助をしながら一緒に食事をして、会話やテレビを見ながら楽しんでいた。行事食なども自前で作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調により食事量が変動する為食べられる量を考えたり、刻み・とろみ等実施。食べやすい工夫をしている。日々の食事量、水分量を記録し、把握出来るようにしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活のリズムとして口腔ケアをし、介助が必要な方には付添にて実施。自立の方には見守りや声かけにて促す。訪問歯科診療や付随する歯科衛生士による口腔ケアも実施。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員トイレでの排泄実施。排泄チェック表の活用。表情や仕草、身振りのチェック。穏やかな声かけで気持ちよく、自立できるように支援。	利用者個々の排泄表から排泄パターンを把握しており、見守りながら声をかけトイレでの排泄を支援している。失禁時は自尊心に配慮して、さりげなくトイレや状況によって浴室に誘導し、清潔を保つように心がけている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜豊富な献立で食物繊維を多く摂取できるように支援。水分・食事量共に記録し、バランスに注意。散歩や体操の実施。必要な方には医師と相談の上、服薬等の支援。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望や都合、体調を優先し、個々に応じた入浴の支援をしている。入浴時間帯の幅を多く取り、毎日入浴を希望する入居者にも実施。	入浴は週2回を目安に日中入浴している。希望があれば心身状態を考慮し、毎日でも可能である。入浴したがない方には、無理強いわせず言葉かけに工夫したり、家族に協力してもらっている。利用者の要望によって同性介助をしている。季節にはゆず湯やアロマオイルを入れて楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況に応じて安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決められた時間に服薬を職員が管理。間違いの起らないようにダブルチェックを実施。本人が服用するまで確認して支援。薬の内容は処方箋で確認し、受信時の変更にも注意。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制参加にならないように本人の意見を聞いてレクリエーションや気分転換、役割の支援をしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添っての散歩や買い物支援。地域の行事へも希望を聞きながら、出られるように支援。家族にも協力頂きながらの外出（個人の習い事）を支援。	利用者の体調や体力に合わせて車椅子の方も散歩、買い物や地域の行事、外食に出かけている。中には病院の帰りに喫茶店に寄ったり、教会に出かける方もいる。送迎バスを使って棟ごとにお花見や紅葉狩りに出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒におやつを買いに行き品物をえらんでもらうなど一緒に支払をする等して支援。また、ご家族と相談のうえ一部の入居者さんは親族との外出時にはお小遣いを持参して出かけられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に添い支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や写真を飾り、気持ちが落ち着くように支援している。毎日の掃除はもちろん、月に一度は大掃除を実施。	4ユニットそれぞれが独立しており、ユニークな建物となっている。エレベーターか昇降機、暖炉が備え付けられている。内部は清掃、温度、換気に配慮している。共用空間には、リース、クリスマスツリー、観葉植物が置かれている。利用者の作品や写真を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや各階にソファを置いてゆっくり過ごせるように工夫している。居室には自由に帰って思い思いに過ごすことができる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談のうえ、本人が今まで使用されていた家具等を居室に配置し違和感なく過ごせるように工夫している。	居室の入口の横には小物入れがあり、なじみのものを入れている。居室内は、クローゼット、エアコン、スプリンクラー、照明器具が備え付けられている。利用者は、使い慣れたベッド、整理ダンス、自作の油絵、家族の写真などを置きその人らしい部屋作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「やりたいこと」や「出来ること」をなるべくやって頂き自立した生活が送れるように努めている。各場所が判るように必要な人の為に居室に名前を貼ったり、トイレの位置を示している。		

平成 23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473700449	事業の開始年月日	平成13年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 青葉福祉学院		
事業所名	グループホーム 万寿の森		
所在地	(〒225-0004) 横浜市 青葉区 元石川町 4323-1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	36 名
		工外数	4工外
自己評価作成日	平成23年12月9日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人一人を尊重し、豊かな自然の中でゆったりと温かな家庭的な生活を支援します。
手作り重視の食事を通して、健康的な生活を支援します。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	万寿の森
ユニット名	さくら棟

アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で話し合い、介護の方法を出し合って理念に基づくケアを確認。管理者と職員は社内研修にて理念を確認し、実践につなげようと努力している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加盟し地域の小学校や幼稚園と交流、運動会に参加したり、訪問を受けたりしている。また、消防音楽隊を招き、近隣の幼稚園児、小学生、住民と共に演奏を楽しむ。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて理解を深めていたできるように努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設以外の専門家や地域の有識者等の意見を聴き、サービス向上に活かすよう努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長や管理者が行っている。民生委員と連携を取り、また地域包括ケアプラザとも連携を取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解するように学びあい取り組んでいる。身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、ご家族等の協力・理解を得て危険防止、不審者対策の為、玄関は施錠している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	取り組んでいる。虐待が見過ごされることが無いように注意を払い、常に意識し、防止に努めている。職員会議等で互いの言動について話し合っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、それらを活用出来るように努めている。今後の研修項目として更に学ぶ機会を持ちたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度管理者が行っている。十分な説明を行って理解・納得を頂くように努力している。場合によっては施設長やケアマネも同席する。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて、話し合える環境につとめている。運営推進会議に家族を代表して2名の方が参加され、結果を家族役員会にて報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の仕事の合間や各会議で話し合いの場を設け、皆が話し易い雰囲気を心がけている。常日頃から職員の意見提案、悩みなどに対して聞く機会を設けてくれている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の実施や意向アンケートを取って活かすように努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修の実施、又各会議で話し合い把握に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を通じて交換現場研修への参加・実施。また、他施設への訪問や研修への参加を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の言葉では表せない喜怒哀楽の感情に歩み寄り信頼関係が築けるよう努力し、家族の声に耳を傾けて本人の気持ちを受け止められるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の不安な事、要望等をしっかりと傾聴して、正確に回答していく努力をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず必要としている支援を見極め、対応出来るようにつとめている。職員は真摯な態度で話を聴き、問題解決の方法を発見出来るよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者一人ひとりと共に暮らす者同士という気持ちで関係を築くように努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員、本人、家族の絆が深められるよう、行事、家族会等の機会を利用し関係を築ける努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた場所や関係は、家族と相談しながら支援に努めている。面会時間を特に定めずにいつでも来ていただけるようになっている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支えあって暮らしていくように、孤立しないように、共に楽しめる支援をする。午前、午後と余暇活動を行っており、入居者同士が関わり合える場を設けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が連絡を取り合って必要に応じて、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声かけを十分にし、傾聴に努める。その上で出来るだけ個々の希望や要望を取り入れ尊重して行っている。自己決定が出来るように支えている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人の意見を聞き、これまでの経過の把握に努めている。今までの生活歴やなじみの暮らし方等の把握に努め、快適に暮らしていただけるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	其々のペースがあり、その日の様子を見ながら無理なく過ごせるように把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ワーカー会議等を利用して、一人ひとりに合った介護計画を立てている。本人の意思やご家族の希望等の反映の確認等を話し合い、ご家族の承認を得ている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員のケア記録の実施。毎日の申し送り。朝礼（全棟参加）での報告。業務日誌の記載等で情報を共有出来る体制になっている。モニタリングを通じて計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況やニーズを良く確認し、実態に合ったサービスが出来るように努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁、社交ダンス、傾聴等地域に暮らしている民生委員やボランティアさんの協力を得ながら安全で楽しく暮らしていただけるように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望により納得された方は居宅療養管理指導のかかりつけ医の往診。また、従前からのかかりつけ医への受診、協力病院への受診等を支援している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による週1回の看護師の訪問時に、日常の情報や気づきを看護師に伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。急変時には電話で相談出来る体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院との連携・関係作りに努め、病院が行っている地域連携会議にも管理者やケアマネが参加している。退院の際には病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族会を通じ又、事業所内でも話し合い、方針を共有できるように取り組んでいる。重度化や、看取りに対するご家族の意向を面談で把握し、支援できるように話し合いを行っている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命法や応急手当の訓練を行っているが、実践力を身につける為にはさらに定期的に訓練を継続し、取り組んでゆく必要あり。緊急時はかかりつけ医、指定看護師に相談・指示を受けられる態勢になっている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的（年2回）に消防署の協力を得て防災・避難訓練を実施。夜間を想定した訓練も実施。意識を高め、身に付けられるように今後も継続して実施する必要あり。地域との協力体制は築けている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを傷つけないよう、プライバシーを保てるよう努力している。安心出来るような言葉かけを行っている。指摘する言葉は用いないように努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やさしく訴えを聴き、自己決定出来るように努めている。本人の感情や意思を表現しやすい状況をつくる努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりある対応を心がけ安全を確認しながら、希望に添えるよう努めている。職員がその人の生活ペースに合わせるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立者には本人の好みや意向を第一に選んでいただく。選ぶことが出来ない利用者にも、どちらが着たいか選択してもらおう等、その人らしさを大切にしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	多様な食材と手作りによる食事で食べる楽しみを支援。利用者と職員は会話を楽しみながら、一緒に準備や片付け等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調により食事量の変動する為食べられる量や大きさ、硬さ等食べやすい工夫をしている。日々の食事量、水分量を記録している。水分量の確保にも気を使っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活のリズムとして口腔ケアをし、介助が必要な方には付添にて実施。自立の方には見守りや声かけにて促す。訪問歯科診療や付随する歯科衛生士による口腔ケアも実施。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員トイレでの排泄実施。排泄チェック表の活用。表情や仕草、身振りのサインを見逃がさず穏やかな声かけで気持ちよく、自立できるように支援。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜豊富な献立で食物繊維を多く摂取できるように支援。水分・食事量共に記録し、バランスに注意。散歩や体操の実施。必要な方には医師と相談の上、服薬等の支援。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に添えるように努力している。羞恥心に配慮し、洗身、洗髪については本人が出来る部分は見守り、できない部分は介助にて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況に応じて安心して気持ちよく眠れるように支援している。居室、寝具類は清潔を心がけ、寛げる空間になるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決められた時間に服薬を職員が管理。間違いの起らないようにダブルチェックを実施。本人が服用するまで確認して支援。薬の内容は処方箋で確認し、受診時の変更にも注意。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳む等お手伝いを通して生活に張りを持っていただく。が、決して無理じいはしないように心掛けている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添ったの散歩や買い物支援。ご家族の協力を得て支援できている。また、外出できるように企画を作って支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しているが、所持したり、使ったりする場面がなく、支援出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投函など支援している。また、ご家族と話したい等の要望には応じて電話をかけご本人と話していただく等支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や写真を飾り、気持ちが落ち着くように支援している。毎日の掃除はもちろん、月に一度は大掃除を実施。居心地良く、安全な空間を作っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや各階にソファを置いてゆっくり過ごせるように工夫している。居室には自由に帰って思い思いに過ごすことができる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談のうえ、本人が今まで使用されていた家具等を居室に配置し違和感なく過ごせるように工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「やりたいこと」や「出来ること」をなるべくやって頂き自立した生活が送れるように努めている。各場所が判るように必要な人の為に居室に名前を貼ったり、トイレの位置を示している。		

平成 23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473700449	事業の開始年月日	平成13年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 青葉福祉学院		
事業所名	グループホーム 万寿の森		
所在地	(〒225-0004) 横浜市 青葉区 元石川町 4323-1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	36 名
		工外数	4工外
自己評価作成日	平成23年12月9日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人一人を尊重し、豊かな自然の中でゆったりと温かな家庭的な生活を支援します。
手作り重視の食事を通して、健康的な生活を支援します。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	万寿の森
ユニット名	ぼたん棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で話し合い、介護の方法を出し合って理念に基づくケアを確認。管理者と職員は社内研修にて理念を確認し、実践につなげようと努力している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加盟し地域の小学校や幼稚園と交流、運動会に参加したり、訪問を受けたりしている。また、消防音楽隊を招き、近隣の幼稚園児、小学生、住民と共に演奏を楽しむ。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて理解を深めていただけるように努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設以外の専門家や地域の有識者等の意見を聴き、サービス向上に活かすよう努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長や管理者が行っている。民生委員と連携を取り、また地域包括ケアプラザとも連携を取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解するように学びあい取り組んでいる。身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、ご家族等の協力・理解を得て危険防止、不審者対策の為、玄関は施錠している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	取り組んでいる。虐待が見 overs されることが無いように注意を払い、常に意識し、防止に努めている。職員会議等で互いの言動について話し合っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、それらを活用出来るように努めている。今後の研修項目として更に学ぶ機会を持ちたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度管理者が行っている。十分な説明を行って理解・納得を頂くように努力している。場合によっては施設長やケアマネも同席する。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて、話し合える環境につとめている。運営推進会議に家族を代表して2名の方が参加され、結果を家族役員会にて報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の仕事の合間や各会議で話し合いの場を設け、皆が話し易い雰囲気を心がけている。 常日頃から職員の意見提案、悩みなどに対して聞く機会を設けてくれている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の実施や意向アンケートを取って活かすように努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修の実施、又各会議で話し合い把握に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を通じて交換現場研修への参加・実施。 また、他施設への訪問や研修への参加を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の言葉では表せない喜怒哀楽の感情に歩み寄り信頼関係が築けるよう努力し、家族の声に耳を傾けて本人の気持ちを受け止められるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の不安な事、要望等をしっかりと傾聴して、正確に回答していく努力をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず必要としている支援を見極め、対応出来るようにつとめている。職員は真摯な態度で話を聴き、問題解決の方法を発見出来るよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者一人ひとりと共に暮らす者同士という気持ちで関係を築くように努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員、本人、家族の絆が深められるよう、行事、家族会等の機会を利用し関係を築ける努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた場所や関係は、家族と相談しながら支援に努めている。面会時間を特に定めずにいつでも来ていただけるようになっている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支えあって暮らしていくように、孤立しないように、共に楽しめる支援をする。午前、午後と余暇活動を行っており、入居者同士が関わり合える場を設けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が連絡を取り合って必要に応じて、相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声かけを十分にし、傾聴に努める。その上で出来るだけ個々の希望や要望を取り入れ尊重して行っている。自己決定が出来るように支えている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人の意見を聞き、これまでの経過の把握に努めている。今までの生活歴やなじみの暮らし方等の把握に努め、快適に暮らしていただけるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	其々のペースがあり、その日の様子を見ながら無理なく過ごせるように把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ワーカー会議等を利用して、一人ひとりに合った介護計画を立てている。本人の意思やご家族の希望等の反映の確認等を話し合い、ご家族の承認を得ている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員のケア記録の実施。毎日の申し送り。朝礼（全棟参加）での報告。業務日誌の記載等で情報を共有出来る体制になっている。モニタリングを通じて計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況やニーズを良く確認し、実態に合ったサービスが出来るように努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁、社交ダンス、傾聴等地域に暮らしている民生委員やボランティアさんの協力を得ながら安全で楽しく暮らしていただけるように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望により納得された方は居宅療養管理指導のかかりつけ医の往診。また、従前からのかかりつけ医への受診、協力病院への受診等を支援している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による週1回の看護師の訪問時に、日常の情報や気づきを看護師に伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。急変時には電話で相談出来る体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院との連携・関係作りに努め、病院が行っている地域連携会議にも管理者やケアマネが参加している。退院の際には病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族会を通じ又、事業所内でも話し合い、方針を共有できるように取り組んでいる。重度化や、看取りに対するご家族の意向を面談で把握し、支援できるように話し合いを行っている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命法や応急手当の訓練を行っているが、実践力を身につける為にはさらに定期的に訓練を継続し、取り組んでゆく必要あり。緊急時はかかりつけ医、指定看護師に相談・指示を受けられる態勢になっている。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的（年2回）に消防署の協力を得て防災・避難訓練を実施。夜間を想定した訓練も実施。意識を高め、身に付けられるように今後も継続して実施する必要あり。地域との協力体制は築けている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを傷つけないよう、プライバシーを保てるよう努力している。安心出来るような言葉かけを行っている。指摘する言葉は用いないように努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やさしく訴えを聴き、自己決定出来るように努めている。本人の感情や意思を表現しやすい状況をつくる努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりある対応を心がけ安全を確認しながら、希望に添えるよう努めている。職員がその人の生活ペースに合わせるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立者には本人の好みや意向を第一に選んでいただく。選ぶことが出来ない利用者にも、どちらが着たいか選択してもらおう等、その人らしさを大切にしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	多様な食材と手作りによる食事で食べる楽しみを支援。利用者と職員は会話を楽しみながら、一緒に準備や片付け等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調により食事量の変動する為食べられる量や大きさ、硬さ等食べやすい工夫をしている。日々の食事量、水分量を記録している。水分量の確保にも気を使っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活のリズムとして口腔ケアをし、介助が必要な方には付添にて実施。自立の方には見守りや声かけにて促す。訪問歯科診療や付随する歯科衛生士による口腔ケアも実施。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員トイレでの排泄実施。排泄チェック表の活用。表情や仕草、身振りのサインを見逃がさず穏やかな声かけで気持ちよく、自立できるように支援。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜豊富な献立で食物繊維を多く摂取できるように支援。水分・食事量共に記録し、バランスに注意。散歩や体操の実施。必要な方には医師と相談の上、服薬等の支援。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に添えるように努力している。羞恥心に配慮し、洗身、洗髪については本人が出来る部分は見守り、できない部分は介助にて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況に応じて安心して気持ちよく眠れるように支援している。居室、寝具類は清潔を心がけ、寛げる空間になるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決められた時間に服薬を職員が管理。間違いの起らないようにダブルチェックを実施。本人が服用するまで確認して支援。薬の内容は処方箋で確認し、受診時の変更にも注意。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳む等お手伝いを通して生活に張りを持っていただく。が、決して無理じいはしないように心掛けている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添ったの散歩や買い物支援。ご家族の協力を得て支援できている。また、外出できるように企画を作って支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しているが、所持したり、使ったりする場面がなく、支援出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投函など支援している。また、ご家族と話したい等の要望には応じて電話をかけご本人と話していただく等支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や写真を飾り、気持ちが落ち着くように支援している。毎日の掃除はもちろん、月に一度は大掃除を実施。居心地良く、安全な空間を作っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや各階にソファを置いてゆっくり過ごせるように工夫している。居室には自由に帰って思い思いに過ごすことができる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談のうえ、本人が今まで使用されていた家具等を居室に配置し違和感なく過ごせるように工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「やりたいこと」や「出来ること」をなるべくやって頂き自立した生活が送れるように努めている。各場所が判るように必要な人の為に居室に名前を貼ったり、トイレの位置を示している。		

平成 23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473700449	事業の開始年月日	平成13年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人 青葉福祉学院		
事業所名	グループホーム 万寿の森		
所在地	(〒225-0004) 横浜市 青葉区 元石川町 4323-1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	36 名
		工外数	4工外
自己評価作成日	平成23年12月9日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人一人を尊重し、豊かな自然の中でゆったりと温かな家庭的な生活を支援します。
手作り重視の食事を通して、健康的な生活を支援します。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	万寿の森
ユニット名	もみじ棟

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で話し合い、介護の方法を出し合って理念に基づくケアを確認。管理者と職員は社内研修にて理念を確認し、実践につなげようと努力している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加盟し地域の小学校や幼稚園と交流、運動会に参加したり、訪問を受けたりしている。また、消防音楽隊を招き、近隣の幼稚園児、小学生、住民と共に演奏を楽しむ。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて理解を深めていただけるように努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設以外の専門家や地域の有識者等の意見を聴き、サービス向上に活かすよう努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長や管理者が行っている。民生委員と連携を取り、また地域包括ケアプラザとも連携を取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解するように学びあい取り組んでいる。帰宅願望や身体能力の低下により入居者さんの安全確保の為に玄関の施錠は行っている。が、その他の身体拘束をしないケアは徹底されている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	取り組んでいる。虐待が見過ごされることが無いように注意を払い、常に意識し、防止に努めている。職員会議等で互いの言動について話し合っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持ち、それらを活用出来るように努めている。今後の研修項目として更に学ぶ機会を持ちたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度管理者が行っている。十分な説明を行って理解・納得を頂くように努力している。場合によっては施設長やケアマネも同席する。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて、話し合える環境につとめている。運営推進会議に家族を代表して2名の方が参加され、結果を家族役員会にて報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の仕事の合間や各会議で話し合いの場を設け、皆が話しやすい雰囲気を心がけている。 年に1度の職員意向調査を始め、毎月行われる各会議でも意見を出し合うことが出来る。日常的に職員からの申し出があれば、時間を取れるようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の実施や意向アンケートを取って活かすように努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修の実施、又各会議で話し合い把握に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を通じて交換現場研修への参加・実施。 また、他施設への訪問や研修への参加を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の言葉では表せない喜怒哀楽の感情に歩み寄り信頼関係が築けるよう努力し、家族の声に耳を傾けて本人の気持ちを受け止められるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の不安な事、要望等をしっかりと傾聴して、正確に応答していく努力をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず必要としている支援を見極め、対応出来るようにつとめている。職員は真摯な態度で話を聴き、問題解決の方法を発見出来るよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者一人ひとりと同じ屋根の下に暮らす家族としての、共に暮らす者同士という気持ちで関係を築いている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者さんと同様にご家族とのコミュニケーションを密に取る様に心がけ、本人のケアに活かせる関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人やその方を個人的に支援して下さる方が、いつでも来て下さるような体制作りにも努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支えあって暮らしていくように、孤立しないように、共に楽しめる支援をする。午前、午後と余暇活動を行っており、入居者同士が関わり合える場を設けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が連絡を取り合って必要に応じて、相談や支援に努めている。転居先への面会や電話による状況確認を行う等している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的な会話の中にも、さまざまな想いが隠されている事が多いので、常にその方の話に耳を傾けるように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人の意見を聞き、これまでの経過の把握に努めている。今までの生活歴やなじみの暮らし方等の把握に努め、快適に暮らしていただけるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	其々のペースがあり、その日の様子を見ながら無理なく過ごせるように把握に努めている。提示の申し送りだけでなく常に職員同士の情報交換を行う事により現状把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ワーカー会議等を利用して、一人ひとりに合った介護計画を立てている。本人の意思やご家族の希望等の反映の確認等を話し合い、ご家族の承認を得ている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員のケア記録の実施。毎日の申し送り・朝礼での報告。業務日誌、連絡帳を利用することにより情報共有が出来るようになってきている。実践や介護計画に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況やニーズを良く確認し、実態に合ったサービスが出来るように努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁、社交ダンス、傾聴等地域に暮らしている民生委員やボランティアさんの協力を得ながら安全で楽しく暮らしていただけるように支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望により納得された方は居宅療養管理指導のかかりつけ医の往診。また、従前からのかかりつけ医への受診、協力病院への受診等を支援している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による週1回の看護師の訪問時に、日常の情報や気づきを看護師に伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。急変時には電話で相談出来る体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院との連携・関係作りに努め、病院が行っている地域連携会議にも管理者やケアマネが参加している。退院の際には病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族会を通じ又、事業所内でも話し合い、方針を共有できるように取り組んでいる。重度化や、看取りに対するご家族の意向を面談で把握し、支援できるように話し合いを行っている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命法や応急手当の訓練を行っているが、実践力を身につける為にはさらに定期的に訓練を継続し、取り組んでゆく必要あり。緊急時はかかりつけ医、指定看護師に相談・指示を受けられる態勢になっている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的（年2回）に消防署の協力を得て防災・避難訓練を実施。夜間を想定した訓練も実施。意識を高め、身に付けられるように今後も継続して実施する必要あり。地域との協力体制は築けている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを傷つけないよう、プライバシーを保てるよう努力している。安心出来るような言葉かけを行っている。指摘する言葉は用いないように努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やさしく訴えを聴き、自己決定出来るように努めている。本人の感情や意思を表現しやすい状況をつくる努力をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりある対応を心がけ安全を確認しながら、希望に添えるよう努めている。職員がその人の生活ペースに合わせるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立者には本人の好みや意向を第一に選んでいただく。選ぶことが出来ない利用者にも、どちらが着たいか選択してもらおう等、その人らしさを大切にしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	多様な食材と手作りによる食事で食べる楽しみを支援。手伝いが出来る人には一緒に準備や片付け等を手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調により食事量の変動する為食べられる量や大きさ、硬さ等食べやすい工夫をしている。日々の食事量、水分量を記録している。水分量の確保にも気を使っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活のリズムとして口腔ケアをし、介助が必要な方には付添にて実施。自立の方には見守りや声かけにて促す。訪問歯科診療や付随する歯科衛生士による口腔ケアも実施。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員トイレでの排泄実施。排泄チェック表の活用。表情や仕草、身振りのサインを見逃がさず穏やかな声かけで気持ちよく、自立できるように支援。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜豊富な献立で食物繊維を多く摂取できるように支援。水分・食事量共に記録し、バランスに注意。散歩や体操の実施。必要な方には医師と相談の上、服薬等の支援。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に添えるように努力している。羞恥心に配慮し、洗身、洗髪については本人が出来る部分は見守り、できない部分は介助にて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況に応じて安心して気持ちよく眠れるように支援している。居室、寝具類は清潔を心がけ、寛げる空間になるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決められた時間に服薬を職員が管理。間違いの起らないようにダブルチェックを実施。本人が服用するまで確認して支援。薬の内容は処方箋で確認し、受診時の変更にも注意。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳む等お手伝いを通して生活に張りを持っていただく。が、決して無理じいはしないように心掛けている。外に散歩に行くなど出来る限りの気分転換を行っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添っての散歩や買い物支援。ご家族の協力を得て支援できている。また、外出できるように企画を作って支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて希望がある時はご家族と相談の上で支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投函など支援している。また、ご家族と話したい等の要望には応じて電話をかけご本人と話していただく等支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や写真を飾り、気持ちが落ち着くように支援している。毎日の掃除はもちろん、月に一度は大掃除を実施。居心地良く、安全な空間を作っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや各階にソファを置いてゆっくり過ごせるように工夫している。居室には自由に帰って思い思いに過ごすことができる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談のうえ、本人が今まで使用されていた家具等を居室に配置し違和感なく過ごせるように工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「やりたいこと」や「出来ること」をなるべくやって頂き自立した生活が送れるように努めている。各場所が判るように必要な人の為に居室に名前を貼ったり、トイレの位置を示している。		

目標達成計画

事業所名 クルーティン 不寿の森 (大塚)

作成日 H24年4月18日 (大塚)

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	モニタリングや評価を記入し記録が不十分で、今後の業務に反映しにくい。	モニタリングや評価を行い、次のプランに反映できるように書類を整える。	「サービス担当者会議の要約」の書式を整えて、次のプラン作成に反映していく。	2ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。